

平成30年度 学校経営報告書（自己評価）

学校名	県立沼津東高等学校
-----	-----------

※は行事実施後のアンケート、生徒・保護者のアンケート等による。

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	達成状況	自己評価	30年度の成果(○)と課題(●)
ア	○自治会活動、部活動の充実 ○奉仕活動の実践 ○PTAとの協働による交通指導 ○「ケータイ安全教室」の実施	・自治会活動の満足度／90%以上※ ・ルールを守っている／90%以上※ ・部活動の満足度／90%以上※ ・1部活1ボランティアの実践 ・生徒の奉仕活動参加／100% ・交通事故件数／前年比3割減 ・情報モラル関連の生徒指導／0件	・自治会活動の満足度 96% ・ルールを守っている 98% ・部活動の満足度 91% ※「学校生活アンケート」で満足やや満足の回答の合計 ・1部活1ボランティアの実践 ほぼ100% ・交通事故件数 前年比 223% ・情報モラル関連の生徒指導 1件6名指導	B	○自治会活動は三会の積極的な取り組み、司法委員会の活性化などが見られた。 ○校内のルールを著しく乱す生徒もいなかった。 ●交通事故が5月、12月に集中して多く起こった。自損事故が多かった。安全運転技術の問題と考えられる。 ●一般生徒の自治会活動に対する満足度が昨年より減っている（満足の回答が昨年度比11%減） ●スマホやSNSによるトラブルがあった。
	○欠席・遅刻指導の励行 ○挨拶の励行 ○集団行動等の時間厳守指導 ○いじめ防止の組織的対応 ○体罰の撲滅	・欠席遅刻者数／1日3人以内 ・式や学年集会での時間厳守 ・学校いじめ防止対策組織の再点検 ・体罰／0件	・欠席 1年:1.6人/日↓、2年:4.2人/日↑、3年:4.9人/日↑ ・遅刻 1年:0.5人/日↓、2年:1.6人/日↑、3年:2.8人/日↑ ・早退 1年:0.3人/日→、2年:0.4人/日↑、3年:0.5人/日↑ (いずれも長欠者を含む) ・学校いじめ防止対策委員会の実施 2件 ・体罰 0件	B	○式や学年集会での時間厳守はできた。 ○いじめの委員会を開催する事により、トラブルの状況を早期につかみ、再発防止に効果があった。 ○いじめ防止基本方針の改定 ●部活動内でいじめに類する事案が2件起こった。部活動に対する思いの違いのようなものが根底にあった。
	○保育・介護体験実習時の積極的な事前準備と事後の振り返り	・活動の満足度／95%以上※	・保育実習4施設、介護実習4施設で実施	A	○介護施設に対するイメージがプラスに変わった生徒、介護施設の必要性の理解の向上が見られた。 ○家庭科の授業で学んだ子どもたちとの接し方を実践することで理解を深めることができた。
	○3年間を見通した計画的な行事の実施・リーダー育成 ○自治会・香陵祭実行委員会を中心とした香陵祭の企画・運営	・達成感・満足度／100%※ ・行事等の中心となって活動する生徒の増加	・香陵祭 生徒満足度 95% ・各係長などのモデルリーダーが、前例にとらわれることなく、新しい創意工夫を随所に加え、改善が見られた。	A	○香陵祭では、四長や係長が積極的に動き、新企画なども立ち上げ、好評のうちに終えることができた。 ○香陵祭・高原・海浜等の係員として参加する生徒が増えた。 ●学校生活における規範意識に関して、自治の機能が低下しているように感じる。
	○高原教室 ・安全及び規律意識の涵養 ・生徒主導による「集い」の実施	・事故／0件 ・参加者満足度／100%※	事故0件 生徒満足度93%	A	○登山、集いともに天候には恵まれなかったが、担当教員・生徒を中心とした入念な準備のおかげで、事故もなく、コース変更など臨機応変の対応も柔軟にできた。 ○2回の下見で丁寧な準備が可能になった。
○海浜教室 ・安全及び規律意識の涵養 ・質の高い泳力向上指導 ・生徒主導による「集い」の実施	・事故／0件 ・安全に留意して行動／100%※ ・積極的に「集い」を企画・運営・協力した生徒／100%※	・事故0件 生徒満足度 93% 「集い」満足度94% ・遠泳参加者全員が完泳 ・「集い」は、準備段階から生徒の積極的な参加が見られた。	A	○天候にも恵まれ泳力および、規律意識の向上が見られた。 ○生徒主導の「集い」は、クラス対抗のレクリエーションなど新たな試みも見られ、充実したものとなった。また、時間通りの運営ができた。	
イ	○生徒の進路実現に対応した教育課程・行事予定・授業の編成 ○職業を知るセミナー、大学出張講義、医学科講演会、大学見学、研究機関訪問研修の実施 ○各種模試・講演会の実施	・教育課程の満足度／90%以上※ ・各種行事の満足度／95%以上※ ・職業を知るセミナー、大学出張講義の冊子作成 ・進路行事、各種模試等への参加／100% ・「進路の手引き」作成 ・教育課程編成案の作成 ・学校行事評価の実施	・生徒の科目選択において、芸術を除き希望通りに選択できた。 ・平成34年度の新学習指導要領の準備をNN10委員会、教育課程検討委員会で検討した。 ・「進路の手引き」「職業を知るセミナー」「大学出張講義」の冊子を例年と作り作成した。 ・「職業を知るセミナー」は、10講座で実施した。 ・東京大学見学には、一年次生95名、二年次生5名、計100名の生徒が参加した。	A	○教育課程の説明を7月三者面談、9月に生徒、保護者の希望者に説明会を開いた。 ○平成34年度の学習指導要領の準備を行い、次年度も継続して検討していく。 ○模試結果について、業者による講演会を実施した。また、3年生の夏休みの前、2年生の2学期末に進路意識の高揚のため、講演会を実施した。 ○「職業を知るセミナー」は、全員が2講座を選択し聴講し、職業意識の向上が見られた。 ●「職業を知るセミナー」の実施時期を早めたほうがより、進路選択に役立つ可能性がある。
	○放課後講習、土曜講習、大学別校外模試の実施 ○進路講演会、大学説明会の実施	・5教科6・7科目型センター試験受験者／90%以上 ・国公立大学現役合格者／150人以上 ・難関大・医学部進学者／40人以上	・5教科6・7科目型センター試験受験者／89% ・国公立大学現役合格者／140人 ・難関大・医学部進学者／37人	A	○3年次生全員がセンター試験を受験した。5教科6・7科目型受験者89% ○講習参加率 90%以上
	○進路資料室・自習室の環境整備 ○進路資料の充実	・進路資料室・自習室の利用者／1日50人以上	・進路資料室・自習室・周辺自習室コーナーの利用者／1日50人以上	A	○進路資料室の机、いすを新しくし、明るいイメージの環境作りができた。朝、昼休み、放課後の多くの3年生が利用した。
ウ	○悩みを抱えた生徒の早期発見 ○全ての面談希望を実現 ○生徒理解のための情報共有推進 ○教職員と保護者との連携促進 ○臨床心理士によるカウンセリングの実施 ○定例ミーティングの実施	・楽しく充実した生活を送っている／90%以上※ ・生徒情報を共有するシステムの確立 ・個別支援計画等の作成	・楽しく充実した生活を送っている／91%(いじめの防止等対策委員会10月実施アンケート) ・心身に問題を抱える生徒の増加に対して、家庭へのサポートを含めて対応した。これまでに週1回の定例ミーティングを27回実施し、情報の共有と対策の検討に努めた。 ・特別支援教育伝達講習を全教員を対象に実施した。 ・スクールカウンセラーによる面談8日14回実施 ・相談室では保護者を含め、延べ60回ほどの面談を実施した。(含む電話相談) ・個別の指導計画を作成し、生徒理解と指導の明確化を図った。	B	○定例ミーティングにより情報の共有と対処策の検討ができた。 ○生徒の問題把握に努め、多様な部署での連携を図りながら対処することができた。 ○スクールカウンセラーとの情報交換を密に行った。 ●個別の指導計画を継続して作成し、学年・教科等で情報を共有しながら進めていく。 ●情報のファイル化を進めていく。
	○学校HPによる情報発信 ○HPの効果的活用方法の研究 ○PTA等との綿密な連携 ○保護者に対するアンケート実施	・PTA総会の参加率／70%以上 ・地区会の参加率／80%以上 ・保護者対象アンケート結果／4段階で全体平均3.50以上 ・HPに関する研修会開催／3回以上	・PTA総会への参加率：67.8%（577/851）で70%を下回った。 ・地区会への参加は、全ての地区で80%を越えた。 ・保護者対象アンケートの結果：平均3.40、昨年度と同様である。全体平均3.50以上には届かなかった。 ・学校情報をきめ細かく学校HPに掲載した。 ・同窓会等と連携をとり、120周年記念事業等について具体的に動き始めた。	B	○本校への保護者の期待は大きい。総会や地区会への出席率は、昨年度を下回ったが、高い水準を維持している。 ●保護者の意見を聞きながら、PTA行事である「卒業生の保護者と語る会」については、新たな企画を検討中である。 ●創立120周年に向け、学校側が関わる式典部会について、内容を検討する必要がある。
エ	○学校HPによる情報発信 ○HPの効果的活用方法の研究 ○PTA等との綿密な連携 ○保護者に対するアンケート実施	・PTA総会の参加率／70%以上 ・地区会の参加率／80%以上 ・保護者対象アンケート結果／4段階で全体平均3.50以上 ・HPに関する研修会開催／3回以上	・PTA総会への参加率：67.8%（577/851）で70%を下回った。 ・地区会への参加は、全ての地区で80%を越えた。 ・保護者対象アンケートの結果：平均3.40、昨年度と同様である。全体平均3.50以上には届かなかった。 ・学校情報をきめ細かく学校HPに掲載した。 ・同窓会等と連携をとり、120周年記念事業等について具体的に動き始めた。	B	○本校への保護者の期待は大きい。総会や地区会への出席率は、昨年度を下回ったが、高い水準を維持している。 ●保護者の意見を聞きながら、PTA行事である「卒業生の保護者と語る会」については、新たな企画を検討中である。 ●創立120周年に向け、学校側が関わる式典部会について、内容を検討する必要がある。

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	達成状況	自己評価	30年度の成果(○)と課題(●)
オ	<ul style="list-style-type: none"> ◎図書館広報活動の多角化 ◎朝読書・読書会の効果的な運営 	<ul style="list-style-type: none"> ○学年・教科等と連携した選書の質の向上、活用内容の高度化 ○図書館通信の学校HP掲載 ○一言感想文集の充実 ○読書会活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間貸出し数/生徒6000冊以上、総計7500冊以上 ・県読書感想文コンクール上位入選 	<ul style="list-style-type: none"> ・貸出数は、1月末現在で4,500冊、総計6,000冊程度で、例年どおり、ほぼ目標レベルに達した。 ・高図研主催の県読書感想文コンクールで入選を果たした。 ・図書館通信(だより)発行とホームページへの掲載を毎月、年間をととして行った。 ・朝読書一言感想文集で読書啓発を図ると共に、アンケートを実施し業務改善に生かした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館通信で学校教育活動とリンクした特設コーナー(全校読書会先生方推薦本コーナー・授業教材とリンクした評論及び小説コーナー・センター試験出典本コーナー・進路参考コーナー・各趣味コーナー等)や個々の先生方推薦本コーナーを充実させ、生徒の興味・関心を高めた。 ○読書会運営・朝読書等に供する書籍の充実を図った。 ●自習空間としての施設利用をより促進させる。
カ	<ul style="list-style-type: none"> ◎英語によるコミュニケーション能力が高く、国際感覚豊かな生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○1年次生対象のワークショップ及びTOEIC(IP)TESTの実施 ○BB研修の実施(上記の優秀者が参加する米国研修) ○短期・長期留学の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次生希望者数/40人の確保 ・ワークショップ回数/15回 ・TOEIC(IP)TEST回数/2回 ・米国研修報告書の発行 ・国、県、民間のプログラム参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望者は78人に達し、選抜試験で46名を参加者とした。 ・ワークショップは週4回、各曜日15回合計60回実施した。 ・TOEICに替え実際の面談によるスピーキングテストのあるケンブリッジ英検を米国研修参加希望者に課した。受験者数33名 ・米国研修に高校訪問を取り入れた。報告書を発行した。 ・エンパワメントプログラム(8月)参加 ・静岡県高等学校英語ディベート大会に2チームが参加した。 ・県グローバル事業での長期留学帰国、参加生徒2名 ・民間利用での短期留学6名 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTの熱心な指導に答え、英会話教室は最後まで欠席者がほとんどいなかった。 ○米国研修参加者は2年次総合学習模擬国連の議長を務めた。 ●英会話教室に多数の参加希望があったが、授業の性質上、人数制限をせざるを得なかった。
キ	<ul style="list-style-type: none"> ◎課題研究の充実 ◎最先端の科学研究に触れる機会の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○設備・機材の計画的整備 ○科学未来館研修、電子顕微鏡実習、放射線実習、科学講演会の計画的実施 ○効果的な探究活動プログラムの研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究達成度/5段階で4以上 ・研修満足度/5段階で4以上 ・実習満足度/5段階で4以上 ・科学講演会満足度/5段階で4以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修・実習等の満足度は、未来館研修4.9、電子顕微鏡実習4.8、放射線実習4.6、科学講演会4.2で目標を達成した。 ・科学講演会は年間3回実施 ・設備・機材の整備は計画どおりに進まなかった。 ・科学の甲子園静岡県大会優勝、全国大会出場(2年連続) ・物理チャレンジ全国大会出場 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○課題研究において、具体的な研究テーマは生徒自身で設定するように変更して探究活動を行い、より主体的・自主的な探究活動が行えた。 ●研究発表等に使用するパソコンが老朽化しており、発表会では他分掌のパソコンを借用して行った。次年度以降計画的に更新する必要がある。
ク	<ul style="list-style-type: none"> ◎生徒の学びや進路志望実現を支援する教職員の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育情勢や進路に関する情報の提供 ○情報共有化の促進 ○大学入試改革への対応 ○校内公開授業の実施 ○ICTを利用した授業方法の研究 ○沼東評価規準の研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修成果や進路情報に関する報告、関係資料の配布/5回以上 ・学習履歴DBの構築 ・パフォーマンス課題を用いた研究授業の実施 ・ルーブリック評価の実践事例作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修成果を職員会議で共有した。(7月、9月) ・コアスクール事業の趣旨に従って教員研修を充実させた。(研修機会の拡大と積極的な先進校視察を実施) ・総合的な探究の時間を先行実施し、年間計画に従って3つのテーマ(1年次生:海浜・職業・ディベート、2年次生:高原:大学・模擬国連)について探究活動が行われた。 ・指導力向上、ICT活用、学習評価方法などの研修に例年に比べより多く参加することができた。 ・学習履歴DBの構築では、現1年次生から始めた。中学校までの活動記録(紙媒体)、平成30年度の活動・資格取得、各学期の目標・振り返り、職セミのまとめなどはClassi(ハネッセ)を利用した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○大学入試改革に向けて、各種研究会に多くの教員が参加した。 ○Classiを導入するなど、入試改革に対して早目の対応が出来た。 ○総合教育センターの定期訪問では全員参加型の研修と外部講師による講演会を行い、主体的・対話的な深い学びについての認識を高めた。 ○総合的な学習の時間では生徒は前向きに活動し、改善の余地はあるものの、大きな期待を抱かせる取組みである。 ●ルーブリック評価については次年度の研究体制を整備するに留まった。 ●Classiを導入したが、有効な活用方法など、更なる研究が必要である。
ケ	<ul style="list-style-type: none"> ◎倫理観と危機管理意識の高い教職員集団の育成 ◎健康・健全で働き方を意識した職場環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○スクラップ&ビルドの徹底 ○適正な会計管理 ○経費削減意識の徹底 ○コンプライアンス研修の実施 ○危機管理に関する訓練の実施 ○定期的な健康診断の実施 ○働き方を考える雰囲気づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほう・れん・そう」の励行 ・教職員の不祥事根絶 ・校外防災訓練参加率の向上 ・健康診断受診率/100% ・定時退勤の励行 ・働き方を変える1分掌・1提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外防災訓練生徒参加率79.7%(追防災訓練生徒参加率100%) ・健康診断受診率100% ・特定の教員が部活動指導で長時間労働に従事している。 ・分掌の業務、役割の見直しに取り掛かった。 ・交通安全について研修を重ねてはいるが、被害事故を含めて4件の交通事故が発生した。 ・業者間の競争意識の徹底や工法・購入方法の工夫により、コスト意識の高い予算執行に努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の机の天板の交換・教室の窓の清掃を実施し、校内の環境整備の充実を図った。 ○外部講師による救命講習を実施し、危機管理訓練の充実を図った。 ○交通安全については粘り強く研修を続ける。 ○予算執行について計画的かつ優先順位を付すことにより、教育環境の向上が図れた。 ●31年度校内人事で分掌の再編を行う。 ●教室のカーテンの管理の強化と交換を実施する。 ●検診後の受診が速やかに行われるよう意識を高める。 ●法令・規則等に則った会計処理を徹底する。